

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市茨川町三丁目5番地7
 (茨川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878

今年はずい
 「夏の香り」が
 採れそうです。
 たんだん田圃も
 少なくなっている。
 健康家族は食料
 のある食卓が幸
 松津は町中にある
 ここの田圃を
 守ろう。

通信教育
 の生徒の
 田植

平成二十四年六月八日(金) 晴 28℃



食農体験で
 親子は何を
 学ぶのか!!
 農業体験は農
 業の理解や自
 然に対する感性
 に対する感性
 認識を新にす
 るためのだけ行
 われるものでは
 い、食と農の放
 射力は自らの生
 活に根ざしたもの
 としてとらえられ
 継続的な活動に
 発展していくや
 り田圃を守らな
 い。



田圃に水が入るとカエル、蝶も飛んできくる。



▲リ、高生も
 一橋みえな田
 圃で田植をす
 るのが楽し
 なんだ!!
 子供がこれし
 があること
 それは稲刈の
 時、稲刈の
 子供達が一
 生懸命に植
 えに、お米を
 秋に暮らして
 食べることに
 が忘れられな
 くない、お米
 食べるのが
 幸せである。



▲ちよど水量が少いかなレ、かり植えよう。



▲写真の後ろに見えるのが
 プラシノキ(カリスアモン)